【青森県立青森高等学校　進路通信】

白聖はくあ　第18号　令和8年11月12日発行



《大学入試について学ぼう③　国公立大学一般選抜》

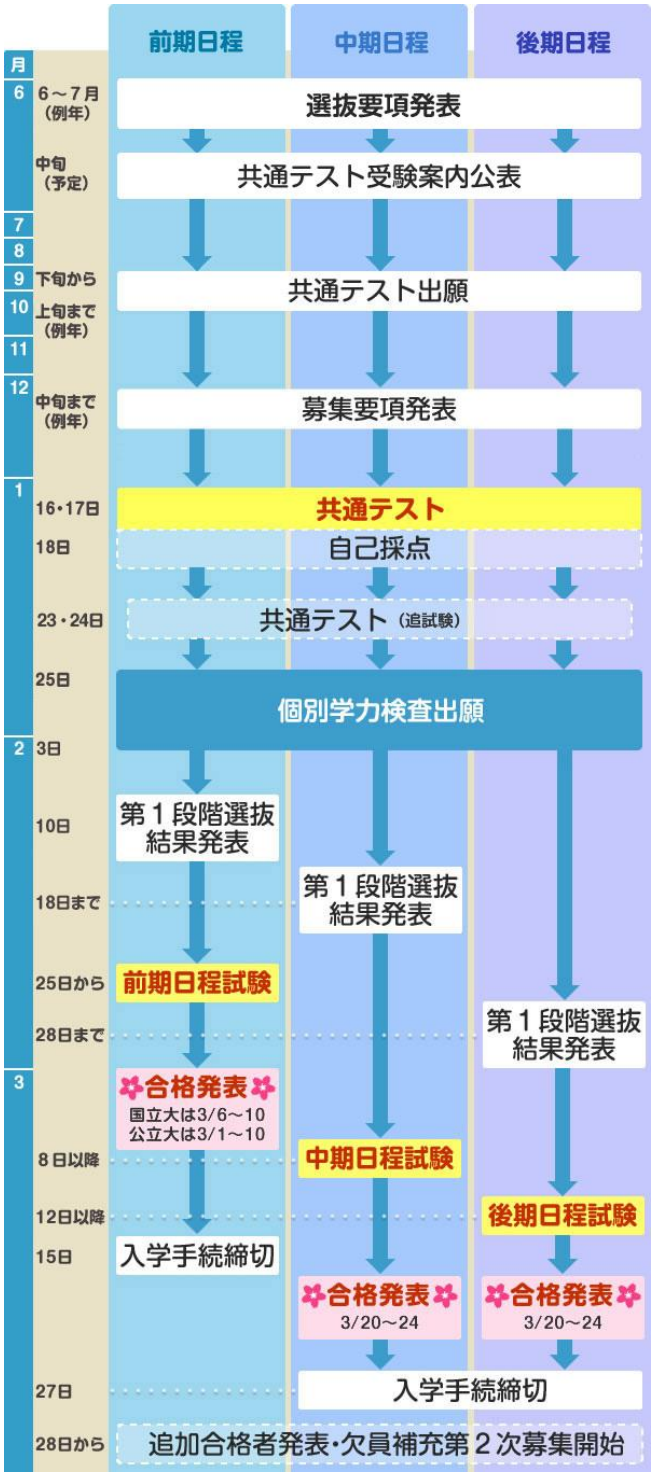
国公立大学を目指す生徒の皆さんは、1月中旬の大学入学共通テストが終わって、各大学の二次試験が実施されるまでのスケジュールはきちんと把握できていますか。分からないままだと、本番近くになってから焦って行動することになってしまいます。受験本番までに2ヶ月を切ろうとしている3年生はもちろんですが、1・2年生も早めに国公立大学の一般受験の流れを把握しておきましょう。

国公立大の一般選抜は、原則として1月中旬に行われる大学入学共通テストと、2～3月に大学ごとに行われる個別学力検査（二次試験）の合計点で合否が決まります。例年の一般選抜スケジュールは**【図1】**の通りです。各大学は6～7月頃に選抜要綱を発表し、その後12月中旬までに詳細な募集要項を出すので、志望校の要項は必ずチェックしましょう。一方、共通テストは例年9月下旬から出願が始まり、翌年1月中下旬の土・日曜日に試験が実施され、今年度は16日(土)・17日(日)の2日間です。試験明けの18日(月)に自己採点結果を高校に提出し、それをもとに最終的な出願校を検討・決定することになります。個別学力検査は、前期日程、後期日程、そして中期日程（一部の公立大のみで実施）で、最大3回まで出願可能です。2月末からいよいよ前期日程が始まり、3月には中期・後期日程の試験が行われます。

【共通テスト直後①：自己採点をする】

共通テストが終わった翌日には自己採点をします。そのため、共通テストの受験時には自分の解答を問題冊子に書き写すのを忘れないようにしましょう。ただし、2日間共通テストを受ける場合、1日目にその日の科目を採点してしまうと、点数によって落ち込んだり浮かれたりして、2日目の教科に影響する可能性があります。1日目の夜には自己採点せずに過ごし、2日目の試験が終わってから採点しましょう。青森高校では共通テスト翌日の1月18日(月)に一斉の自己採点を行います。自己採点の点数を間違えると、次に説明する「共通テストリサーチ」で正確な判定が出ないので、丁寧に取り組む必要があります。日頃から受験している模擬試験でも自己採点をしていますが、それは共通テストの正確な得点を把握するための練習にもなっています。軽く考えないで、毎回真剣に取り組んで精度を高めるようにしてください。

【図1】2027年度入試　国公立大学一般選抜スケジュール



【Benesse マナビジョンＨＰより引用】

【共通テスト直後②：共通テストリサーチを出す】

自己採点が終わったら、大手予備校（河合塾や駿台など）に自分の点数と志望校のデータを送ります。共通テストリサーチとは、このように全国約 40 万人の受験生が出したデータから、その大学を志望している受験生の中で自分の成績がどれくらいの位置にいるのかが分かるというものです。青森高校では自己採点の結果を学校で一括して予備校に送っています。数日後にはインターネットで判定を確認することができます。気をつけてほしいのは、予備校によって判定が大きく異なる場合もあるので、一つだけでなく複数の予備校の判定を比較して出願校を検討することも必要です。

【リサーチ返却から出願①：結果を分析する】

共通テストリサーチの判定結果は、3 日程度で返却されます。それぞれの志望校に対して合格可能性が「A」から「D」、または「A」から「E」までで判定されています。このときＡ～Ｃ判定だからといって必ず合格するわけではなく、逆にＤからＥ判定だからといって合格できないわけではありません。共通テストと二次試験の配点比率によっては、二次試験の配点が高い場合は逆転合格する可能性も残っていることもあります。大切なのは、二次試験の試験科目の配点や、過去問の難易度を見ながら自分の実力に合う大学を見つけることです。そのため、ＨＲ担任と面談をしたり、時には三者面談で保護者を交えたりしながら、納得のいく受験校を決定していくことになります。



【リサーチ返却から出願②：国公立大学に出願】

受験する大学が決まったらいよいよ出願です。国公立大学の 2026 年度入試は出願期間が 1 月 25 日（月）から 2 月 3 日（水）です。最近はインターネット出願が殆どで、紙の願書は不要だったりしますが、ネット出願でも書類を紙に印刷して郵送する必要があるため、各大学が出している学生募集要項を確認してください。出願期間は私立大学より短く、また公立中期・後期試験の出願も前期日程と同じ期間なので、出願し忘れないよう締め切りには十分に注意しましょう。このとき学校に作成してもらう調査書も郵送書類に同封することになります。予め余裕をもってＨＲ担任に調査書の発行を依頼しましょう。大学によっては、出願状況をホームページに掲載していますので、志願倍率を確認することができます。



【二次試験本番に向けて①：過去問に取り組む】

受験校が決まったら、いよいよ過去問に取りかかります。といっても 3 年生はもっと早い段階で複数年分の過去問は解き終えていることでしょう。特に共通テストの結果に応じて出願校を変更した場合は、なるべく早く新しい受験校の過去問に取りかかりましょう。また、公立中期・後期試験の対策は前期試験が終わってからの短い期間でも間に合うケースが多いので、まずは前期試験で受験する大学の過去問に集中しましょう。過去問を知るには、2 階演習室にある「赤本」がおすすめです。3 年生のみならず、1・2 年生も利用することができるので、積極的に活用してください。

【二次試験本番に向けて②：私立大学との両立】

国公立大学の過去問に夢中になりすぎて、私立大学の過去問演習や受験本番が疎かにならないように注意しましょう。逆に、私立大学の対策に力を入れ過ぎてしまうことも避けたいものです。私立大学の入試までの期間は 1 週間に各科目の過去問を 1 年分ずつ解くペースを目安に取り組むと良いでしょう。また、私立大学の試験は国公立大学の 1 週間前までに終わることが殆どなので、最後の 1 週間は国公立大学の過去問に集中して取り組むことができます。

【合格サプリ東北版より引用・抜粋】

